

キエーロ使い方マニュアル

金山町役場 保健福祉課 保健係



キエーロとは？

土の中にいる微生物の力によって生ごみを分解・消滅させる生ごみ処理容器です。

キエーロの特徴

- ◇庭やベランダといった小スペースで利用できる
- ◇土の中にいる微生物が生ごみを分解するので、虫や匂いが発生しない
- ◇分解された生ごみは、水と二酸化炭素になるため土の量は増えない
- ◇特別な薬剤や電気代が必要ないため、維持費がかからない
- ◇食品の水切りが不要
- ◇食用油・汁物・腐ったもの・カビのついたものも処理が可能。

1.用意するもの

- ①容器・・・衣装ケース・プランター・バケツなど
- ②フタ・・・太陽の光を通すもの
- ③黒土・・・庭や畑の土、市販品など何でもよい ※ただし、砂・粘土質・腐葉土は適しません。
- ④容器とフタの間に隙間を作るもの・・・突っ張り棒、角材など

2.キエーロ設置から投入までの準備

- ① 設置場所は日当たり、風通しが良い場所を選びます。
- ② 容器に黒土を入れ、フタを半開きで被せれば完成です。

注意点

- ・雨が入らないようにフタをしますが、空気の通り道は必要です。棒を挟むなどして隙間を作ってください。
- ・土の表面は常に乾いた状態にしてください。



3. 生ごみの投入方法

生ごみを埋める場所を想定します。容器の大きさによって2～4か所が目安です。



① 深さ 20cm ほどの穴を掘る

- ・表面の乾いた土は最後にかぶせるので、まとめておきます。



② 生ごみを入れる

- ・1回に入れる生ごみは400グラム程度（おおよそ片手一杯分）までにしてください。

※可能であれば、生ごみをフタつき容器で2～3日保管した後にキエー口投入すると、分解しやすくなります。

③ 水分量を調節し生ごみと土をよく混ぜる

- ・土と生ごみが軽やかたまり、土団子が作れるくらいの水分量を目安に水を足します。

※生ごみの水分で足りる場合は必要ありません。

- ・生ごみを細かく砕きながら、土と見分けがつかなくなるくらいまでよく混ぜます。



④ 乾いた土をかぶせる

- ・生ごみが見えないように乾いた土をたっぷりかぶせて終了です。

※ごみを表面に出さないことで、臭いや虫の発生を防ぎます。



埋める場所を変えながら、①～④を繰り返します。

気温が高い時期で5日～7日。低い時期で10日～14日で生ごみは分解されます。

分解状況により投入量や頻度を調整してください

4. 分解しやすいもの・分解しにくいもの

キエーロは、人間が食べる食品はほとんど分解しますが、骨、種、固い皮などは苦手です。

【分解が早いもの】

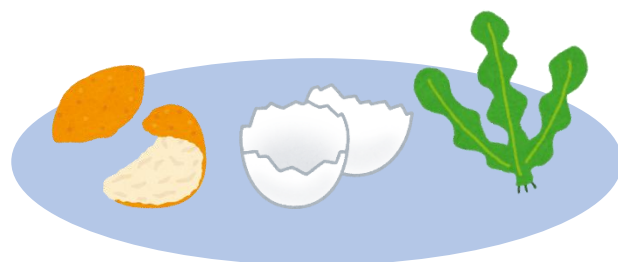
- 調理されたもの
- 傷んだ食品
- 食用油、お茶がら など



【分解が遅いもの】

★そのままでは分解しにくいので出来るだけ細かくする。

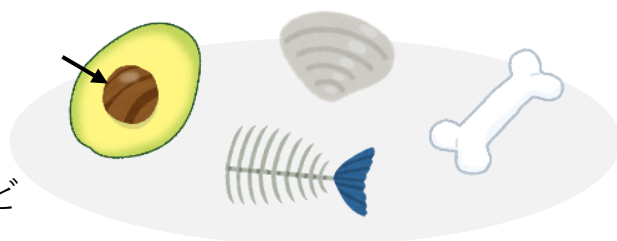
- 生野菜
- 柑橘類の皮
- 根菜類
- 卵の殻 など



【ほとんど分解しないもの】

★キエーロに入れてもそのまま残るので、燃やせるごみで捨ててください。

- 鶏や魚などの大きな骨
- 玉ねぎの皮など水分のない皮
- 貝などの固い殻
- 桃、梅干しの種、とうもろこしの芯 など



分解を早めるポイント

◎生ごみを入れるときに、前回埋めた場所を軽くシャベルで突き刺して空気を入れてあげると、分解が進みます（生ごみが土の表面に出ないように注意してください）。

◎食用油を少量加えると、微生物のはたらきが活発になり分解が進みます。

5. よくある質問

生ごみが消えない	<ul style="list-style-type: none"> ・ 分解しにくい生ごみではありませんか？ 生野菜や柑橘類の皮など分解しにくいものは、出来るだけ細かく刻みましょう。土と混ぜるときも、ザクザクと傷つけるように混ぜると分解しやすくなります。 ・ 気温が低くありませんか？ 気温が低いと微生物の働きが鈍り、分解が遅くなります。設置場所は日当たり・風通しが良い場所を選びましょう。 ・ 水分は適切ですか？ 土の水分量は多すぎると悪臭の原因となりますが、カラカラに乾いていても生ごみが分解しません。生ごみを入れたら土がまとまる程度に水を加えてください。 <p>※使い始めて間もない場合は微生物の数が少なく、分解に時間がかかります。</p>
虫や臭いが気になる	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生ごみの投入量が多すぎる可能性があります 投入する生ごみが多すぎると分解が追い付かなくなり、臭いや虫の原因となります。投入量や投入頻度を減らしてみてください。 ・ 水分が多すぎる可能性があります 水分が多すぎて中がドロドロになっている場合は、乾いた土を混ぜて水気を緩和し、生ごみが分解されるまでしばらく投入を控えましょう。 ・ 埋める場所が浅いのかもかもしれません 生ごみを埋める場所が浅い場合や、表面に出ていると臭いや虫の原因となります。生ごみは土とよく混ぜて深く埋め、さらにその上から乾いた土をかけてください。 <p>※虫の発生が気になる場合は、お湯や殺虫剤で駆除しても問題ありませんが、生ごみが無くなり土が乾燥すればいなくなります。</p>
白いカビのようなものが出てきた	<p>生ごみの分解が進むことで発生するもので問題ありません。</p>